

200311240-3

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 07250240 A

(43) Date of publication of application: 26.09.95

(51) Int. Cl.

H04N 1/40  
B41J 2/52  
G06T 5/30

(21) Application number: 06037198

(22) Date of filing: 08.03.94

(71) Applicant: RICOH CO LTD

(72) Inventor:  
WADA SHINICHIRO  
YAGISHITA TAKAHIRO

(54) IMAGE FORMING DEVICE

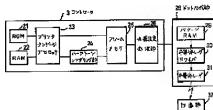
image outputs.

(57) Abstract:

COPYRIGHT: (C)1995,JPO

PURPOSE: To make possible the stable formation of a high picture quality half tone image by eliminating the generation of jaggy or isolated dots.

CONSTITUTION: A printer language processor 23 stores document image data transmitted from a host machine in a RAM 22 and conducts image improving processing based on a program in a ROM 21. Binary image data and multi-level image data are mixed in the document image data to which the image improving processing is conducted, concerning the multi-level image data, multi-level dither processing is conducted by a half tone rendering part 24, and the density data of respective picture elements are stored in a frame memory 25. On the other hand, the binary image data are stored as they are. Based on these density data, notice picture element density data and direction data are calculated and based on the density data, a semiconductor laser driver 30 conducts the pulse width modulation and power modulation of a semiconductor laser 31. Further, based on the direction data, the semiconductor laser driver 30 conducts the pulse width modulation and power modulation of the semiconductor laser 31 and performs



特開平7-250240

(43) 公開日 平成7年(1995)9月26日

(51) Int.Cl. <sup>4</sup>	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 N	1/40			
B 4 1 J	2/52			
G 0 6 T	5/30			
			H 0 4 N 1/40	1 0 3 B
			B 4 1 J 3/00	A
審査請求 未請求 請求項の数5 OL (全9頁) 最終頁に続く				

(21) 出願番号 特願平6-37138

(22) 出願日 平成6年(1994)3月8日

(71) 出願人 000068747

株式会社リコー

東京都大田区中馬込1丁目3番6号

(72) 発明者 和田 真一郎

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

(72) 発明者 柳下 高弘

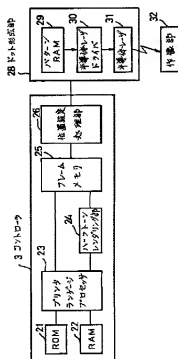
東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

## (54) 【発明の名称】 画像形成装置

## (57) 【要約】

【目的】 ジャギや孤立ドットの発生をなくし、安定した高画質中間画像の形成を可能にする。

【構成】 ホストマシンから送信される文書画像データに対し、プリンタラジエジプロセッサ23が、RAM22に格納するとともにROM21のプログラムの基に画像向上処理を施す。画像向上処理を施した文書画像データは2値画像データと多値画像データとが混在しており、多値画像データはハーフトーンレンドリング部24で多値ディザ処理がなされて各画素の濃度データがフレームメモリ25に格納され、一方、2値画像データはそのまま格納される。この濃度データに基づいて、注目画素濃度データおよび方向データを算出し、濃度データに基づいて半導体レーザドライバ30が半導体レーザ31のパルス幅変調およびパワー変調を行う。さらに方向データに基づいて半導体レーザドライバ30が半導体レーザ31のパルス幅変調およびパワー変調を行い、画像出力を行う。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 2値画像データと多値画像データとが混在している画像データに基づいて画像形成可能な画像形成装置において、前記2値画像データからジャギーの発生原因となる画素を検出し、検出された画素に対して濃度データの変換処理を施す2値画像データ処理手段と、前記多値画像データの濃度データを変換する多値画像データ処理手段と、2値、多値画像処理手段より出力される濃度データに基づき、注目画素の周囲画素を参照して注目画素に対する方向データを生成する位置設定手段と、前記方向データと濃度データに基づいてドットを形成するドット形成部を有することを特徴とする画像形成装置。

【請求項2】 前記2値画像データ処理手段は、ジャギーの発生原因となる画素を検出するために2値画像データをイメージ・データに展開するベクトル展開手段と前記イメージ・データ展開時に各画素が画像にどのくらいかかっているかを判定するための面積率算出手段とを備え、さらに算出した面積率に基づき各画素をnビット(nは整数)の濃度データに変換する手段を有することを特徴とする請求項1記載の画像形成装置。

【請求項3】 前記多値画像データ処理手段は、指定された線数とスクリーン角の多値ディザマトリクスの各値により多値画像データの各画素をnビットの濃度データに変換する手段を有することを特徴とする請求項1記載の画像形成装置。

【請求項4】 前記位置設定手段は、隣接8画素の濃度データを参照し、参照したある画素の両隣の参照画素を含めた3画素の和を8方向ごとにとり、その最大値を検索する検索手段と、前記最大値の方向を注目画素の方向データとして出力する制御手段とを有することを特徴とする請求項1記載の画像形成装置。

【請求項5】 前記ドット形成部は、前記方向データと前記濃度データに基づき半導体レーザ変調データを格納する変換テーブルを参照する手段と、前記半導体レーザ変調データに基づき1ドット多値変調を行う手段とを有することを特徴とする請求項1記載の画像形成装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、半導体レーザを利用する複写機、ファクシミリ、レーザプリンタ等のデジタル画像形成装置において、特に1ドット多階調を表現できる画像形成装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】図12は一般的なレーザプリンタの構成を示すブロック図であり、1はレーザプリンタを示す。レーザプリンタ1は大きく分けて、エンジン部2とコントローラ3に分けられる。エンジン部2は、作像機構(帯電、露光、現像、転写、清掃)4と、紙搬送機構(給紙、転写、搬送、定着、排紙)5と、そのシーケンス制御で

あるメカニカルコントローラ6等からなり、ハードコピーの作成を行う。コントローラ3は、エンジン部2に対する起動要求と、エンジン部2の状態チェック、表示、プリントすべき画像データの生成および供給を行う。なお、コントローラ3が扱う画像データはラスタースキャンデータである。

【0003】ホストマシン7は、ポストスクリプトに代表されるPDL(Page Description Language)で記述された文字、線画等のベクトル画像と、スキャナ等で入力したイメージ画像とを合成して文書画像を形成する。

【0004】コントローラ3は、ホストマシン7から受信した文字コードおよび制御コードをI/Oバッファ8に蓄え、コントローラ3の処理能力に応じて入力データ速度を調整する。

【0005】さらに、コントローラ3は、ホストマシン7からの文字コードおよび制御コードに従って、印刷データのページ単位でのレイアウトを行い、文字、線画等のベクトル画像(2値画像)とイメージ画像(多値画像)とからなる画像データに対し、それぞれに最適な画像データ処理を施して、フレームメモリ10に格納する。フロントROM9には、文字フォントを生成する演算情報が格納されている。

【0006】なお、PDL(Page Description Language)は、ページを記述する言語であり、フレームメモリ10はフルページバッファを基本としている。フレームメモリ10に格納された印刷データは、エンジン部2に回送され、ラスタライズされたデータとしてフレームメモリ10より出力される。この出力がページ単位で繰り返される。

【0007】近年、コンピュータの出力装置として、レーザビームプリンタ等の電子写真方式を用いた記録装置が広く使われるようになってきた。これらの装置は、高画質、低騒音等メリットが多く、デスクトップ・パブリッシング分野で急速に拡大させる要因となった。

【0008】同時にホストコンピュータや、プリンタをコントロールするコントローラのメモリ大容量化、高速処理化、低価格化、高機能化等の発展により、いわゆる点画印刷による2値印刷のみならず、ディザ法や濃度バターン法により多値画像データを2値画像データに変換し、その変換した印字データを出力する方法が広く用いられてきた。

【0009】一方、近年では、解像度と中間調再現性をより高いレベルで両立する技術としてパルス幅変調方式が提案され、実用化されている。このパルス幅変調方式では、画像形成装置は画像情報として多値信号を受け、そのレベルに応じたパルス幅でレーザを駆動して1ドットに階調を持たせている。

【0010】しかしながら、電子写真プロセスの特性上、良好な中間調画像を得るためには、数ドットまとめてパルス変調を行う必要があるが、そうすると文字や線画等を印字する場合の解像度も低下してしまう。

【0011】そこで最近では写真等の中間調画像を印字する場合と、文字線画等のテキスト(2値)画像を印字する場合とで、解像度の異なるブリタが提案されている。すなわち、テキスト画像印字時は300dpi(ドット/インチ)、多値画像印字時はパルス幅変調を用いて150dpiとして印字を行うものである。テキスト画像はすべて2値画像メモリに書かれ、イメージ画像は多値画像メモリに描かれ、それぞれの画像を重ね合わせて出力される。

【0012】このようにして、文字画像部分もイメージ画像部分も高い品質となった。

【0013】また、パーソナルコンピュータを用いた出版システムや、DTPの普及に伴い、コンピュータ・グラフィックスで扱うようなベクトル画像を印字するシステムが広く使われるようになってきている。その代表的なものとして、例えばポストスクリプトを用いたシステムがある。ポストスクリプトは、前述のページ記述言語(以下、PDLと称する)と呼ばれる言語ジャンルに属し、1枚の文書構成する内容について、その中に入るテキスト(文字部分)やグラフィックス、あるいはそれらの配置や体裁まで含めたフォームを記述するプログラミング言語であり、このようなシステムでは、文字フォントとしてベクトルフォント(アウトラインフォント)を採用している。

【0014】したがって、文字の変換を行ってもビットマップフォントを使用したシステムと比べて、格段に印字品質を向上させることができ、また文字やグラフィックス等のベクトル画像と、写真等のイメージ画像を混在させて文書を作成し、印字することができるという利点がある。

【0015】しかし、前記したようなシステムで使用されるレーザプリンタ等の画像形成装置の解像度は、せいぜい200~400dpiのものが多く、解像度が低いために文字やグラフィックスのエッジ部分にざざざざ(以下、ジャギーと称する)が発生する。図13は、文字“a”のベクトル画像の一部を拡大図し(図2参照)、これをビットマップに展開してドットを形成した結果を示す説明図である。エッジ部のジャギーは、解像度のピッチで発生する。

【0016】そのため近年は、ジャギーを補正するスムージング機能を搭載した画像形成装置が発表されている。このスムージング機能とは、画像データを副走査方向数ライン分のメモリ(FIFO等)からなるウィンドウからは注目画素の周辺画素を参照して、注目画素をパルス幅変調等によりドット面積を変更してジャギーをスムージングするという機能である。

【0017】

【発明が解決しようとする課題】しかし、前記スムージング機能は、注目画素の周辺画素を参照するために副走査方向数ライン分(大体7~9ライン分)のラインメモリを格納しなければならず、またジャギーを判別するため

の判別パターンを格納するパターンRAMを有したスムージング機能のための専用のASICを必要とした。また、文字やグラフィックス等の2値画像データと写真等の多値画像データを区別せずにスムージング機能を行うため、多値画像データの網点形状まで変更してしまい写真等の多値画像を悪化させてしまうという欠点があった。

【0018】また、基本マトリクスサイズが8の場合、2値で階調を表現する場合は、図14に示すように9階調しか表現できないが、1ドット多階調方式、例えばパルス幅変調方式を用いれば、1画素当たりのパルス幅を4つに分割する場合、図15に示すように33階調の中間調を表現できる。

【0019】ここで、図14、15に示す数値は、階調数がN値のとき1からNの数値までをドットで形成すればよいことを示す。図16は階調数が3、9、22、29値の場合のドットの形成の仕方を示す説明図である。

【0020】従来の方法では、パルス幅制御によりマトリクスを形成する場合、そのドットの成長の仕方は、なるべくドットが狭中するように、予めそのマトリクスの位置において設定されていた。すなわち、図15において階調数が1~12、21~32値までは、ドットは左方向より成長させ、13~20値までは右方向から成長させていた。

【0021】しかるに、前記従来例においても、図17に示すような画像パターンの場合、矢印Pで示されるドットは、ほぼ孤立ドットとなり、非常に不安定となり、階調どりのドット面積とならないう欠点があった。

【0022】そこで本発明では、文字やグラフィックス等の2値画像に対してだけジャギーをスムージングし、写真等の多値画像においては孤立ドットをなくし、ドット集中型とすることにより、1ドット多階調による高階調、高画質で、かつ安定した中間調画像の形成を可能にする画像形成装置を提供することを目的とする。

【0023】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するために、本発明は、次に記載する手段を採用したことを特徴とする。

【0024】本発明の第1の手段は、2値画像データと多値画像データとが混在してなる画像データに基づいて画像形成可能な画像形成装置において、前記2値画像データからジャギーの発生原因となる画素を検出し、検出された画素に対して濃度データの処理を施す2値画像データ処理手段と、前記多値画像データの濃度データを交換する多値画像データ処理手段と、2値、多値画像処理手段より出力される濃度データに基づき、注目画素の周辺画素を参照して注目画素に対する方向データを生成する位置設定手段と、前記方向データと濃度データに基づいてドットを形成するドット形成部を有することを特徴とする。

【0025】第2の手段は、第1の手段において、前記2値画像データ処理手段は、ジャギーの発生原因となる

画像を検出するために、2値画像データをイメージ・データに展開するベクトル展開手段と前記イメージ・データ展開時に各画素が画像にどのくらいかかっているかを判定するための面積率算出手段とを備え、さらに、算出した面積率に基づき各画素を $n$ ビット( $n$ は整数)の濃度データに変換する手段を有することを特徴とする。

【0026】前記第3の手段は、第1の手段において、前記多値画像データ処理手段は、指定された線数とスクリーン角の多値ディザマトリクスの各画素により多値画像データの各画素を $n$ ビットの濃度データに変換する手段を有することを特徴とする。

【0027】前記第4の手段は、第1の手段において、前記位置設定手段は、隣接8画素の濃度データを参照し、参照したある画素の周囲の参照画素を含めた3画素の和を8方向ごとにとり、その最大値を検索する検索手段と、前記最大値の方向を注目画素の方向データとして出力する制御手段とを有することを特徴とする。

【0028】前記第5の手段は、第1の手段において、前記ドット形成部は、前記方向データと前記濃度データに基づき半導体レーザ変調データを格納する変換テーブルを参照する手段と、前記半導体レーザ変調データに基づき1ドット多値変調を行う手段とを有することを特徴とする。

【0029】

【作用】前記第1の手段では、2値画像データの画像データ処理を施す2値画像データ処理手段と、多値画像データの画像データ処理を施す多値画像データ処理手段と、前記2値、多値画像データ処理手段より出力される濃度データに基づき、注目画素の周囲画素を参照して注目画素に対する方向データを生成する位置設定手段と、前記方向データと濃度データに基づきドットを形成するドット形成部を有して、2値画像と多値画像のそれぞれに施した画像データ処理手段を行うことにより高画質な画像を形成する。

【0030】前記第2の手段では、2値画像データ処理手段において、2値画像データをイメージ・データにベクトル展開し、前記イメージ・データ展開時に各画素が画像にどのくらいかかっているかを判定するための面積率を算出し、面積率に基づき各画素を $n$ ビットの濃度データに変換することにより、文字・グラフィックス等のエッジ部のジャギーをスムージングする。

【0031】前記第3の手段では、多値画像データ処理手段において、指定された線数とスクリーン角の多値ディザマトリクスを形成し、前記多値ディザマトリクスの各画素により多値画像データの各画素を $n$ ビットの濃度データに変換することにより、1ドット多階調の高階調な中間調画像を形成する。

【0032】前記第4の手段では、位置設定手段において、注目画素の隣接8画素の濃度データを参照し、参照したある画素の周囲の参照画素を含めた3画素の和を8

方向(左上、上、右上、右、右下、下、左下、左)ごとにとり、その最大値を検索し、前記最大値の方向を注目画素の方向データとして出力することにより2値画像のエッジ部のジャギーをスムージングし、多値画像においてはドット集中型にドットを形成し、安定した画質の画像を形成する。

【0033】前記第5の手段では、ドット形成部において、前記方向データと前記濃度データに基づき半導体レーザ変調データを格納する変換テーブルを参照し、前記半導体レーザ変調データに基づき1ドット多値変調を行うことにより、1ドットにおいてドットの面積と位置を制御できる。

【0034】

【実施例】以下、本発明の実施例について図面を参照しながら詳細に説明する。

【0035】本実施例は、PDLとして多値画像データを扱っているポストスクリプトを用いていることを前提として説明する。なお、図12に示す一般のプリンタ1の構成要素と同様な機能を有する部分には同一の符号を付して詳細な説明は省略した。

【0036】図1は本実施例の回路構成を示すブロック図であり、21はROMを示し、このROM21には、画質向上処理等のプログラムが格納されている。22は文書画像データを格納するRAM、23はプリンタラジエーションプロセッサ(以下、CPUと称する)を示し、このCPU23による制御のもとに、ホストマシン7から送信されてくる文書画像データの格納制御および画質向上処理の実行が行われる。24は多値ディザ処理をするハーフトーンレンドリング部、25は画質向上処理をした各画素の濃度データを格納するフレームメモリ、26は各画素の方向データを復元する位置設定処理部を示す。なお、濃度データとは画素内の画像部分の面積率に基づいて算出した値であり、方向データとは、注目画素周囲の画素の濃度データに基づいて設定したデータである。この濃度データおよび方向データの設定については後に詳述することにした。

【0037】さらに、図1において、28はドット形成部、29はパターンRAMを示し、このパターンRAM29は、注目画素に対する方向データと濃度データとにより、半導体レーザ変調データに変換するためのテーブルを格納するものである。30は1ドット多値変調を行う半導体レーザドライバ、31は半導体レーザ、32は半導体レーザ31により露光して画像を形成する作像部を示す。また、ドット形成部28は、パターンRAM29、半導体レーザドライバ30、半導体レーザ31から構成される。

【0038】CPU23は、ホストマシン7(図7参照)PDLで作成された文書画像データを受信し、この文書画像データを、ROM21に格納されたプログラムに従ってRAM22に格納する。さらにCPU23は、1ページ分の文書画像データを受信してRAM22へ格納すると、RA

M22の文書画像データをイメージ・データに展開し、かつ画質向上処理を施して、各画素の濃度データをフレームメモリ25に格納する。

【0039】次に、前記画質向上処理について説明する。

【0040】まず、RAM22に格納された文書画像データを入力し、PDLの解釈に従って、2値画像データであるベクトル部(ベクトル領域)と、多値画像データであるイメージ部(イメージ領域)を判別する。PDLでは、PDLオペレータ(PDLにおける属性等を記載したコマンド)によってベクトル部分とイメージ部分が区別できるように記述されているので、PDLオペレータを判別することによって容易にベクトル部とイメージ部との区別が可能である。

【0041】CPU23によってベクトル部と判別された場合、CPU23は、RAM22内の文書画像データ中のベクトル画像部分を読み込み、画像がベクトル部分にどれくらいかかっているかを判定するための画素内の画像部分の面積率を算出する。さらに、この面積率に基づいてCPU23は各画素の濃度を算出する。なお、説明の都合上、出力する濃度データを4bit、16値(0~15)とする。図2は文字“a”をベクトル展開した一部分を示す図である。図2において、例えば画素A、Bに注目し、画素内の画像部分の面積率を算出すると、この場合、A=54%、B=20%となった。この面積率に基づき、Aの濃度データが8(1000B)、Bの濃度データが3(0011B)と設定され、前記濃度データがフレームメモリ25に格納される。

【0042】また、CPU23によってイメージ部と判断された場合、CPU23は、RAM22内の文書画像データ中のイメージ画像部分を読み込み、線数、スクリーン角等の情報に基づき、多値ディザ閾値マトリクスを作成する。この多値ディザ閾値マトリクスと前記イメージ部分の各画素との濃度をCPU23が比較する。なお、ここでは、濃度データを4bit、16値としたので、多値ディザ閾値マトリクスは15枚作成される。

【0043】例えば、画像データが300dpiで、線数が1061pi、スクリーン角が45degのとき、マトリクスの形状は、図3に示すように風車型の8個のセルから構成される。そこで、図4(a)のように130~132の範囲の階調データを有するイメージ画像のデータ(イメージ画像のデータは0~255の階調データを持つ)があるとすると、各画素は図示しない多値ディザ閾値と比較され、図4(b)のように0~15の範囲で濃度データに変換され、この濃度データがフレームメモリ25に格納される。

【0044】前記濃度データは、次のような手段で位置変換がなされる。

【0045】説明の都合上、300dpiの画像データに対してエンジン画素密度を600dpiとする。フレームメモリ25より濃度データが入力される位置設定処理部26では、注

目画素と、その周囲8画素を参照するためのウィンドウを有する。ここでは、図6に示すように4fが注目画素である。

【0046】位置復元をなすにおいて、まず注目画素4f中心に図6に示すように8方向考える。ここで、各画素は4ビットの濃度データを有しており、多値画像データの場合、0(0/15)~15(15/15)までの1ドット当たりの多値画像濃度を表現できる。例えば、図5に示す画素5gは、

5g= {5g\_3, 5g\_2, 5g\_1, 5g\_0} (5g\_n:5gのnbit目を表す)

の4ビットの濃度データを有している。

【0047】位置設定処理部26は、以下のような制御を行うことで方向データを出力する。まず、各方向の隣接3画素における各濃度データの合計値を計算する。例えば、図7に示すように濃度データが各画素に与えられている場合、方向データは、

UL=4g+5g+5f=14+15+14=43

同様に、

UP=5g+5f+5e=42

UR=5f+5e+4e=37

RI=5e+4e+3e=30

LR=4e+3e+3f=28

LW=3e+3f+3g=30

LL=3f+3g+4g=37

LE=3g+4g+5g=41

となる。

【0048】次に、各合計値の最大値を検索し、最大値の方向データを出力する。この場合は、最大値43のUL(左上の方向データ)が位置設定処理部26の方向データPOS\_Tとしてドット形成部28に出力される。

【0049】次に、ドット形成部の制御動作について説明する。

【0050】本実施例においては、画像データ300dpiに対してエンジンの画素密度が600dpiであるため、測定方向に2分割する(図11参照)。つまり、あるラインの画像データに対して、半導体レーザ31は2回走査することになる。

【0051】ハーフトーンレンダリング部24から入力される注目画素の方向データと、CPU23から入力される濃度データと、1回目の走査か2回目の走査かを示す図示しないSELECT信号とにより、パターンRAM29にアクセスするアドレスが決定される。パターンRAM29は、アドレスが大きく3つ(Medium, Dark, Light)に分かれ、その3つもさらに3つの領域に分割されており、1ドットを右側、左側、中央から生成させるデータが格納されている。パターンRAM29に格納されたデータは、半導体レーザドライバ30に入力され、1ドット多値変調がなされて出力される。

【0052】ドット多値変調には、パルス幅変調、パワ

一変調あるいはパルス幅変調とパワー変調による組み合わせがあるが、ここではパルス幅変調とパワー変調とを組み合わせた1ドット多値変調の場合をもとに、図8を参照しながら半導体レーザドライバ30について説明する。

【0053】本実施例にかかる半導体レーザドライバ30は、パルス幅変調(8分割)×パワー変調(32分割)で1ドット当たり256階調表現でき、さらに位置変調として左、中、右1ドットの形成する位置を制御できる。半導体レーザドライバ30は大きくデジタル部71とアナログ部74に分かれている。デジタル部71には、注目画素の画像データとしてパターンRAM29より位置データ2ビット(S1, S0)と階調データ8ビット(D7-D0)が入力される。階調データ8ビット(D7-D0)はLUT部72によって階調補正されPWM部73に出力される。さらに、このPWM部73には前記位置データ2ビット(S1, S0)が入力されており、この入力信号に対してパルス幅変調が行われる。

【0054】このようにして半導体レーザドライバ30は、注目画素の画像データとしてパルス幅変調および位置変調された5ビット(D04-D00)のデータをアナログ部74に対して出力する。また半導体レーザドライバ30は、内部に電圧/周波数変換部VCOに内蔵した遅延クロック(図示せず)を備えており、この遅延クロックの出力パルスによりパルス幅変調と位置変調を実現する。

【0055】アナログ部74は、5ビットのデータ(D04-D00)をデジタル/アナログ変換部(D/A変換部)75によって半導体レーザパワーにリアルタイムに変換させる。また、アナログ部74のパワー制御部76のアンプと半導体レーザ31とフォトダイオード77で負帰還回路を形成し、常にパワーコントロールを行っている。

【0056】以下、図9、10を参照し、具体的なデータを用いて詳細に説明する。

【0057】ドット形成部28において濃度データが3で方向データが左上のデータを選択した場合、偶数ライン(1回目の走査ライン)のときはパターンRAM29のアドレス16Hをアクセスする。パターンRAM29より出力されるデータは262H(1001100010H)となり、これは上位2ビットが左からドットを形成することを表し、下位8ビットのうちの上位3ビット、この場合は3がパルス幅変調の値となる。また下位8ビットのうちの下位5ビットがパワー変調の値となり、この場合は2となる。つまり半導体レーザの出力波形としては、1ドットの時間幅に対して3/8の時間幅をMaxパワーで、かつ1/8の時間幅をパワー変調分のMaxパワーの2/32のパワーで出力される(図9(a)参照)。

【0058】奇数ライン(2回目の走査ライン)のときはパターンRAM29のアドレス10Hをアクセスし、パターンRAM29より出力されるデータは200H(1000000000H)となり、半導体レーザの出力波形としては0になる(図

9(b)参照)。

【0059】また、ドット形成部において濃度データが7で、方向データが左上のデータを選択した場合、偶数ラインのときはパターンRAM29のアドレス18Hをアクセスする。このとき、パターンRAM29より出力されるデータは2B1H(1010110001H)となり、半導体レーザの出力波形としては、1ドットの時間幅に対して5/8の時間幅をMaxパワーで、1/8の時間幅をパワー変調分のMaxパワーの17/32のパワーで出力させる(図9(c)参照)。

【0060】奇数ラインのときはパターンRAM29のアドレス13Hをアクセスし、パターンRAM29より出力されるデータは238H(100011011H)となる。半導体レーザの出力波形としては、1ドットの時間幅に対して1/8の時間幅をMaxパワーで、1/8の時間幅をパワー変調分のMaxパワーの27/32のパワーで出力される(図9(d)参照)。

【0061】図9(a)、(b)の出力結果を図10(a)に、図9(c)、(d)の出力結果を図10(b)に示す。

【0062】図9(a)に示す出力によれば、1ドットの時間幅に対して3/8の時間幅をMaxパワーで、かつ1/8の時間幅をパワー変調分のMaxパワーの2/32のパワーで出力され、さらに方向データが左上であるために、図10(a)に示すように画素における上段の左からドットが設定された出力分だけ成る。また、図9(a)に示す出力によれば、出力が0であるために、図10(a)に示すように画素における下段にはドットが形成されない。すなわち、図11の画素Cに示すようなパターンが形成される。同様に図9(c)、(d)に示す出力によれば、図11の画素Dに示すようなパターンが形成される。

【0063】なお、他の濃度データ、方向データのときも同様な制御によりドットの位置と面積を制御する。

【0064】以上説明したような制御により、ベクトル画像の図2は、図11に示すような画像となりエッジ部のジャギーのスムージングが行われる。また、イメージ画像の図4(a)は図4(c)における網点部分に示すようなドット集中型になる。

【0065】

【発明の効果】以上、説明した通りに構成された本発明によれば、次に記載する効果を奏する。

【0066】請求項1記載の構成によれば、2値画像と多値画像のそれぞれに適した画像向上手段を行うことにより高画質が画像を形成することができる。

【0067】請求項2記載の構成によれば、文字、グラフィックス等のエッジ部のジャギーをスムージングすることができる。

【0068】請求項3記載の構成によれば、1ドット多階調の高階調な中間調画像を形成することができる。

【0069】請求項4記載の構成によれば、2値画像のエッジ部のジャギーをスムーズにすることができる。ま

た、多値画像の画点をドット集中型としたことにより、安定した画像を形成することができる。

【0070】請求項5記載の構成によれば、1ドットにおいてドットの面積と位置を制御できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例の回路構成を示すブロック図である。

【図2】文字“a”をベクトル展開した一部分を示す説明図である。

【図3】本実施例に係る多値ディザ処理に用いるマトリクスの基本セル構造を示す構成図である。

【図4】本実施例に係る多値ディザ処理についての説明図である。

【図5】多値画像処理部に入力される注目画素4fを中心とした3×3の画像データを示す説明図である。

【図6】画素4fの注目方向を示す説明図である。

【図7】画素4f周辺の濃度データを示す説明図である。

【図8】半導体レーザドライバの構成を示すブロック図である。

【図9】半導体レーザの出力波形を示す波形図である。

【図10】図9に示す出力波形による出力結果を示す説明図である。

【図11】従来の装置において、図2に示すパターンを出力したときの印字状態を示す拡大図である。

【図12】一般的なレーザプリンタの構成を示すブロック図である。

【図13】文字“a”のベクトル画像の1部の拡大図

し、これをビットマップに展開してドットを形成した結果を示す説明図である。

【図14】基本セルが8個のときの基本マトリクスの構成の一例を示す構成図である。

【図15】基本セルが32個のときの基本マトリクスの構成の一例を示す構成図である。

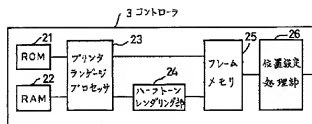
【図16】図15に示すマトリクスにおけるドットの成長を示す説明図である。

【図17】図16に示すマトリクスを組み合わせる画像パターンの一例を示す構成図である。

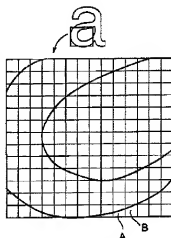
【符号の説明】

1…レーザプリンタ、2…エンジン部、3…コントロール部、4…作像機構、5…紙搬送機構、6…メカニカルコントロール部、7…ホストマシン、8…I/Oバッファ、9…フロントROM、10、25…フレームメモリ、11…エンジンI/F、12、23…プリンタランゲージプロセッサ、13…ユーザI/F、14…操作パネル、21…ROM、22…RAM、24…ハーフトーンレンダリング部、26…位置設定処理部、28…ドット形成部、29…パターンRAM、30…半導体レーザドライバ、31…半導体レーザ、32…作像部、71…デジタル部、72…LUT部、73…PWM部、74…アナログ部、75…デジタル/アナログ変換部(D/A変換部)、76…パワー制御部、77…フォトダイオード。

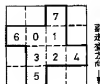
【図1】



【図2】



【図3】



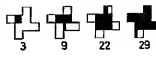
【図5】



【図6】

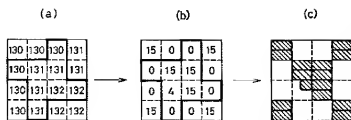


【図16】





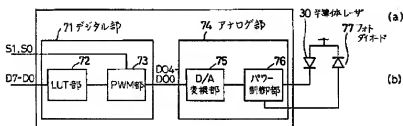
【図4】



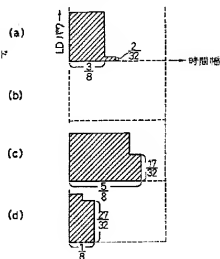
【図7】

15	14	13
14	4f	10
12	11	7

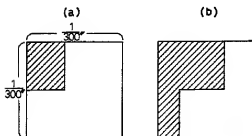
【図8】



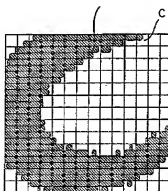
【図9】



【図10】



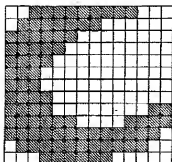
【図11】



【図14】

6
5 1 2
4 3 7
6

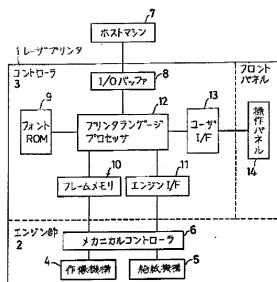
【図13】



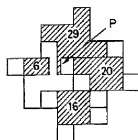
【図15】

21	22	23	24
20	19	18	17
16	15	14	13
12	11	10	9
8	7	6	5
4	3	2	1
0	0	0	0

【図 12】



【図 17】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 6

識別記号 庁内整理番号

F I

G 0 6 F 15/66

技術表示箇所

4 0 5